

2016 年度 センター試験 政治・経済 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：34 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	○ 変化なし ● 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

新課程初年度であったが、その影響による変化は見られない。大問数4題、解答数34問で、昨年に比べ、大問数が1題減り、解答数も2問減った。表や図を用いた資料問題は昨年同様6問であった。内容面では、事項の年代を並び替える問題がなくなり、最新の時事問題も姿を消した。また、昨年出題のあったリード文の趣旨を踏まえた穴埋め問題もなくなった。問題数が減り、時間的に余裕ができたことと、前述のようなやや解答しづらかった問題がなくなったこと、その他の問題についても基本的な知識で解答できる問題が多かったことにより、全般的に昨年よりやや易しかったと思われる。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	グローバル化を通じた近代国家の変遷をテーマに、政治・経済の各分野から総合的に出題。	28 点	問 4 はリード文に沿って表を読み取ることで比較的容易に正答を導ける。問 10 の「スローフード」や「六次産業化」等の用語はやや難易度が高いが、フード、産業化という言葉に注目し文章を丁寧に読めば解答は難しくない。
第2問	地球環境問題をテーマに、政治・経済の各分野から総合的に出題。	24 点	問 3 は公害国会の年代を確認した上で、政党の変遷を理解していることを要求され、やや難しかった。問 8 はドイツが環境先進国であることを認識していれば解答が導ける。その他の設問は基本的な知識で解答可能であろう。
第3問	民族問題をテーマに、主に国際政治分野からの出題。	24 点	問 2 はゲームの理論を用いた設問であったが、2011、2008 年にも出題されており、目新しさはない。問 8 の「メディア・スクラム」という用語はあまり見かけないが、消去法で解答可能。
第4問	市場メカニズムをテーマに主に経済分野全般からの出題。	24 点	問 2 の需給曲線は、過去年度の設問に比べ平易であった。問 8 は公務員人件費の削減が容易ではないことに着目できれば、難しくない。